会議録

会議の名称	令和3年度 第1回 西東京市保健福祉審議会
開催日時	令和4年1月6日(木) 19:00~21:00
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階 庁議室 (新型コロナウイルス感染症対策のため、ハイブリッド形式(委員が来庁またはリモートにて参加)での開催)
出席者	熊田委員(会長)、渡邊委員(副会長)、山下委員、指田委員、伊集院委員、三上委員、長尾委員、篠宮委員、武田委員、平委員
議題	(1) 諮問事項 「第5期西東京市地域福祉計画を策定するにあたっての基本的な考え方について」 (2) 報告事項 「各計画の報告について」 「自立支援住宅改修費助成事業、高齢者住宅改造費給付事業及び高齢者日常生活用具等給付事業における利用者負担のあり方について」
会議資料の名称	次第 資料1 第4期西東京市地域福祉計画を策定するにあたっての基本的な考え方について(答申) 資料2 第4期西東京市地域福祉計画 資料3 第4期西東京市地域福祉計画 ー概要版ー 資料4 第4期西東京市地域福祉計画進捗状況調査票 資料5 重点的な取組の評価と今後の展開 資料6 重層的支援体制整備事業の全体像(イメージ図) 資料7 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第8期) 資料8 西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第8期) ー概要版ー 資料9 第6期西東京市障害福祉計画・第2期障害児福祉計画 資料10 第6期西東京市障害福祉計画・第2期障害児福祉計画 ー概要版ー 資料11 自立支援住宅改修費助成事業、高齢者住宅改造費給付事業及び高齢者日常生活用具等給付事業における利用者負担のあり方について(答申) 資料12 介護保険と高齢者福祉の手引き(抜粋)(令和3年7月発行) 参考資料1 西東京市保健福祉審議会条例(令和2年2月1日改正) 参考資料2 西東京市保健福祉審議会委員名簿(令和3年9月1日付) 参考資料(国資料抜粋) 重層的支援体制整備事業概要
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>■開会 定足数を満たしているため、会議成立。傍聴希望なし。</p> <p>■次第5 会長・副会長互選 互選の結果、会長に熊田委員、副会長に渡邊委員がそれぞれ選任される。</p>	

■次第6 議題 (1) 諮問事項

事務局から、資料を基に説明。

【質疑応答】

○委員

現計画期間中に、福祉丸ごと相談窓口を設置。重層的支援体制整備事業は、8名の地域福祉コーディネーターの配置や強化方法等の検討が課題。また、本事業の5本の柱（包括的相談支援等）の連携、市民に分かりやすい仕掛けを作ることが非常に大切。

○委員

生活支援コーディネーターと地域福祉コーディネーターの違いは。

○事務局

地域福祉コーディネーターは、属性を問わず、複合的・複雑化した課題にも対応。西東京市では、8名のコーディネーターを各圏域に分けて配置。生活支援コーディネーターは、西東京市社会福祉協議会に委託し、4つの圏域に1人ずつ、更に全体のまとめ役の1人が配置。主に地域づくりに力を入れている。

○委員

4つの圏域と、8つの包括支援センターの分け方は。

○事務局

4つの圏域にそれぞれ2つの包括支援センターが含まれている。

○委員

地域福祉コーディネーターは法的根拠がなく、生活支援コーディネーターは介護保険法が根拠。双方の連携の仕組みについては、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画とも関係してくる。

○委員

生活支援コーディネーターの役割は、地域資源の発掘というイメージ。地域福祉コーディネーターとのすみ分けをしつつ、重なるところがあってもよい。

○事務局

生活支援コーディネーターは、平成27年の介護保険改正時に総合事業と共に出てきた考え方。地域の様々な資源を使って、生活を支援・立て直す目的で開始した。フレイル状態から健康な状態へ可逆的に戻すときに、外出支援等、その地域で実施可能なサービスをコーディネートし、介護保険料を抑えるのが国の考え方だが、全国的にもうまくできていない。今後は、介護保険サービスのすみわけ、地域の力の開発、そしてコーディネートという役割を細分化していくことが必要。

○委員

コーディネーター相互の連携や市民への周知は、制度自体の問題もあるが、整理が必要。

○委員

生活支援コーディネーターへの市民の認知度の低さが課題。

○委員

生活支援コーディネーターの開始が後のため、役割分担や市民の認知度は引き続き課題となっている。

○委員

コーディネーターの認知度を上げていくための検討や育成の方法は。

○事務局

地域福祉コーディネーターは、ほっとネット推進員（現在約400人）の増員に向け、定期的な呼びかけと、養成講座等を実施。また、推進員に対し、研修等で情報共有等を図っている。

○委員

学校現場で福祉の仕組みを利用したいが、利用・相談方法がわからないときがある。ふれあいのまちづくり等と関わる際に、個人の利用にもつながれば。

○事務局

地域の方が担うほっとネット推進員は、地域における課題をいち早く入手できるという利点がある。様々な複合的な課題を受け止め、関係機関との連携の中で一体的に取り組む体制作りを次期計画の中で作り込み、充実させていくことが大切。

○委員

複合的な課題に対する各相談機関間の連携や支援のフロー等は。

○事務局

重層的支援体制整備の令和4年度からの本実施に向け、今年度、庁内検討委員会を立ち上げ、検討を重ねている。まず各関係部署との意識の共有を行い、その後、庁外関係機関との連携も進め、体制を組み立てていく。

○委員

支援が必要と思われるが支援を受けられていない家族がいるケース等は、支援機関が相談し、バックアップを受けられる機関が必要。市においても、これまでの研修の蓄積や経験豊かな職員のバックアップがあると、全体の調整が行いやすくなる。

○事務局

複合的な課題等の情報共有のためにも、重層的支援体制整備事業の本実施に向けた検討を進めており、庁外関係機関の参加も見込んでいる。

○委員

地域の意欲や調整能力、聞き取り体制を保つためにも、国の考え方はあるかと思うが、体制の構築に費用をかけることも必要なのでは。

○委員

核となる相談機関を整理していく必要もある。

○委員

制度等の認知度を上げるのは難しい問題。また、相談機関も種類が多く、複雑な中、核となる機関を整理し、実効性のある連携を整えることが課題。

○委員

現場の状況を思い浮かべ、改めて、今回話のあったような課題を認識した。

○委員

どこへどのように相談すれば、どのような仕組みを利用できるのかが分からず困っている人がいる中、ワンストップの相談窓口やコーディネート機能というのは非常に大切。

■次第6 議題 (2) 報告事項

資料を基に事務局から説明。

「各計画の報告について」…高齢者支援課、障害福祉課

「自立支援住宅改修費助成事業、高齢者住宅改造費給付事業及び高齢者日常生活用具等給付事業における利用者負担のあり方について」…高齢者支援課

■事務連絡

○事務局

今回は2月頃の開催を目途とし、本日の内容を踏まえ、答申案に向けて調整を図る。

■閉会